

# 船舶事故調査報告書

平成24年11月1日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	衝突（護岸）
発生日時	平成23年1月31日 06時03分ごろ
発生場所	大阪府泉州港関西国際空港2期空港島工事現場 泉佐野市所在の関空泉州港海上アクセス基地西防波堤灯台から真方位337°630m付近 （概位 北緯34°27.0′ 東経135°15.3′）
事故調査の経過	平成23年2月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	砂利採取運搬船 <sup>はちまん</sup> 八幡丸 487トン 132317、新井海運有限公司 70.91m×13.20m×7.15m、鋼 ディーゼル機関、1,471kW、平成6年1月9日
乗組員等に関する情報	船長 男性 62歳 四級海技士（航海） 免許年月日 昭和44年12月26日 免状交付年月日 平成21年9月7日 免状有効期間満了日 平成27年3月24日
死傷者等	なし
損傷	本船 バルバスバウに破口等 護岸 凹損等
事故の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、土砂約1,700tを積載し、船首約3.5m、船尾約5.1mの喫水で関西国際空港の2期空港島工事現場（以下「工事現場」という。）入口に向けて約4.0ノットの対地速力で南進していた。 船長は、単独で手動操舵により操船を行っていたが、左舷前方に見える大阪府関西国際空港沖D灯標（以下「D灯標」という。）を確認し、その付近に設置された汚濁防止膜の先端の灯光を探しながら航行中、右舷前方に見えるはずの「工事現場入口の護岸（以下「本件護岸」という。）先端付近に設置された赤色の灯標」（以下「本件灯標」という。）の灯光が、左舷前方に見えたので、左舵を取ったものの、平成23年1月31日06時03分ごろ本件護岸に衝突した。

	<p>船長は、損傷を確認の上、揚荷を予定していた作業船に左舷着けし、海上保安庁へ通報した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 西北西、風力 3、視界 良好 海象：波高 約1.5m</p>
その他の事項	<p>船長は、工事現場へは今年初めての航行であり、また、これまで夜間の航行経験がなかった。</p> <p>本船のレーダー画面は、うねりの映像により物標の映像が見えにくい状況であり、また、船長は、関西国際空港付近では、探照灯が使用できないものと思っていたが、工事発注者及び工事請負業者のいずれも探照灯の使用を禁止する指導を行ったことはなかった。</p> <p>本件灯標（赤色、毎4秒に1閃光、光達距離約4.5km）とD灯標（黄色、毎3秒に1閃光、光達距離約5海里）の距離は、約181mであった。</p> <p>D灯標付近から関西国際空港1期空港島西防波堤にかけては、汚濁防止膜が平成22年11月11日に本事故発生時の場所に設置され、小型浮標灯（黄色、毎3秒に1閃光、光達距離約4km）がほぼ等間隔に11個設置されていた。</p> <p>工事請負業者は、汚濁防止膜の設置期間中、月に2回、交通船により汚濁防止膜の海上点検を行っていたが、汚濁防止膜に異常はなかった。</p> <p>船長は、去年から汚濁防止膜の設置場所が変更され、工事現場入口が狭くなっていることを荷主から聞いていた。</p> <p>船長は、本件灯標の灯光が陸岸の明かりに紛れて見えにくいと感じた。</p> <p>本件灯標（光度8.6カンデラ）は、光度が15カンデラ未満の海上保安庁長官の許可を必要としない小規模な航路標識（簡易標識）であった。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、関西国際空港の工事現場を南進中、船長が、左舷前方の汚濁防止膜先端の灯光を探すことに注意を向けていたことから、船首方向の本件護岸に気付かずに航行し、本件護岸に衝突したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、夜間、本船が、関西国際空港の工事現場を南進中、船長が、左舷前方の汚濁防止膜先端の灯光を探すことに注意を向けていたため、船首方向の本件護岸に気付かずに航行し、本件護岸に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p>

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 狭い水域に進入する際、目標とする物標が確認できない場合は、停止して物標を確認すること。</li></ul> |
|--|---|